

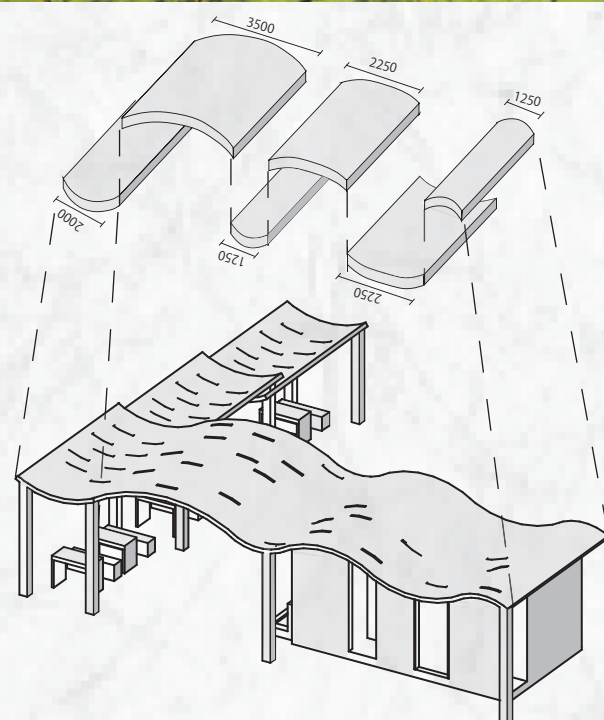
波面の休憩所

～ 大度海岸にかかる第二の波～

コンセプト：水面

沖縄の美しい海を一望できるこの敷地に計画する休憩所は、大度の海のように美しいものであるべきだと考えた。大度海岸は豊かな波が立つエリアであり、その波を求めて多くのサーファー達が訪れる。また豊かな波が育むサンゴ礁には多くの魚が集まるため沖縄屈指のダイビングスポットでもある。

そこで大度海岸の波を模した大屋根を持つ休憩所を計画する。この水面のような大屋根は大度海岸にかかる第二の波であり、海岸に訪れる人々を優しく迎え入れる。この水面の下で人々はサンゴ礁に群れる魚たちのように自由にそして生き生きと交流していこう。



施工性

大屋根はプレキャストで施行する。3500,2250,2000,1250mmの四種類の波形をつくり、それぞれを現場でつなぎ合わせ大度海岸の波を模した大屋根をかけることで施工性と高い品質を維持する。

大屋根

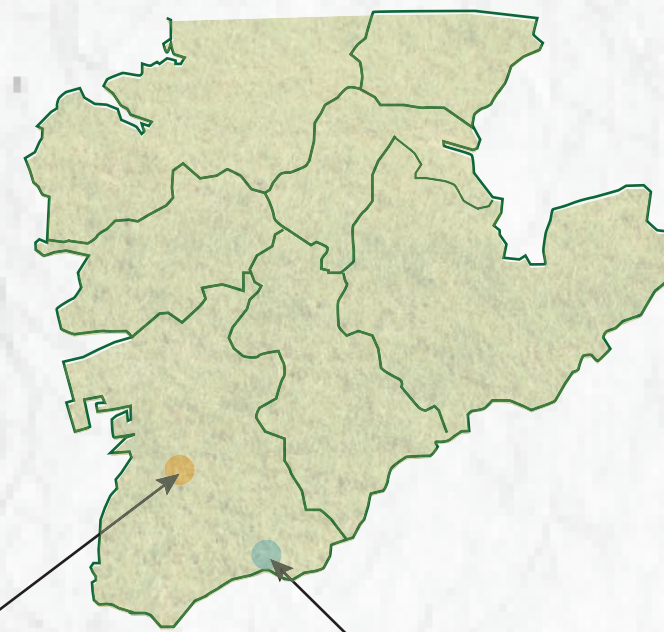
大度海岸の波をイメージした曲線的な波を休憩所にかける。大屋根にスリットをいれ、そこに廃棄された琉球ガラスを埋め込む。このスリットに日光が透過した際、琉球ガラスが日光を乱反射し地面に大度海岸の水面のような影を落とす。曲線的な大屋根は休憩所に軽さとおおらかさを与え、大度海岸周辺の景色に溶け込んでいく。

敷地調査

計画敷地は大度岸にあり、一面が海に面している。敷地周辺には畑や山など緑が溢れており、計画敷地は海と緑の優れた風景地となっている。この調査結果を踏まえ、本計画では大度海岸の美しい風景に配慮した沖縄らしい休憩スペースを提案する。

琉球ガラス

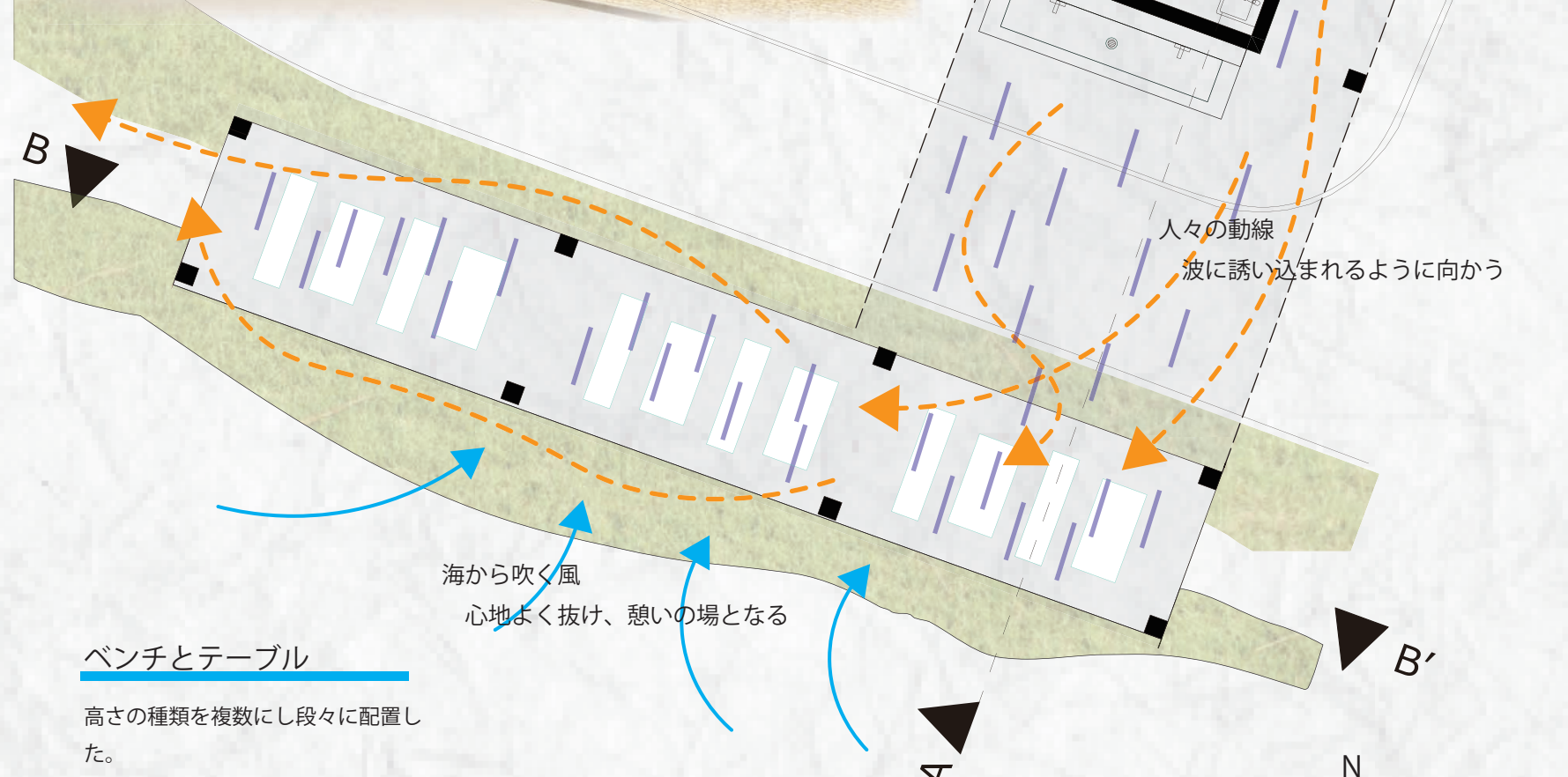
敷地近くの琉球ガラス村から廃棄される琉球ガラスを譲ってもらい建材として有効活用することで南城市のゴミ削減につなげる。



琉球ガラス村
計画敷地から琉球ガラス村まで
車で約十分

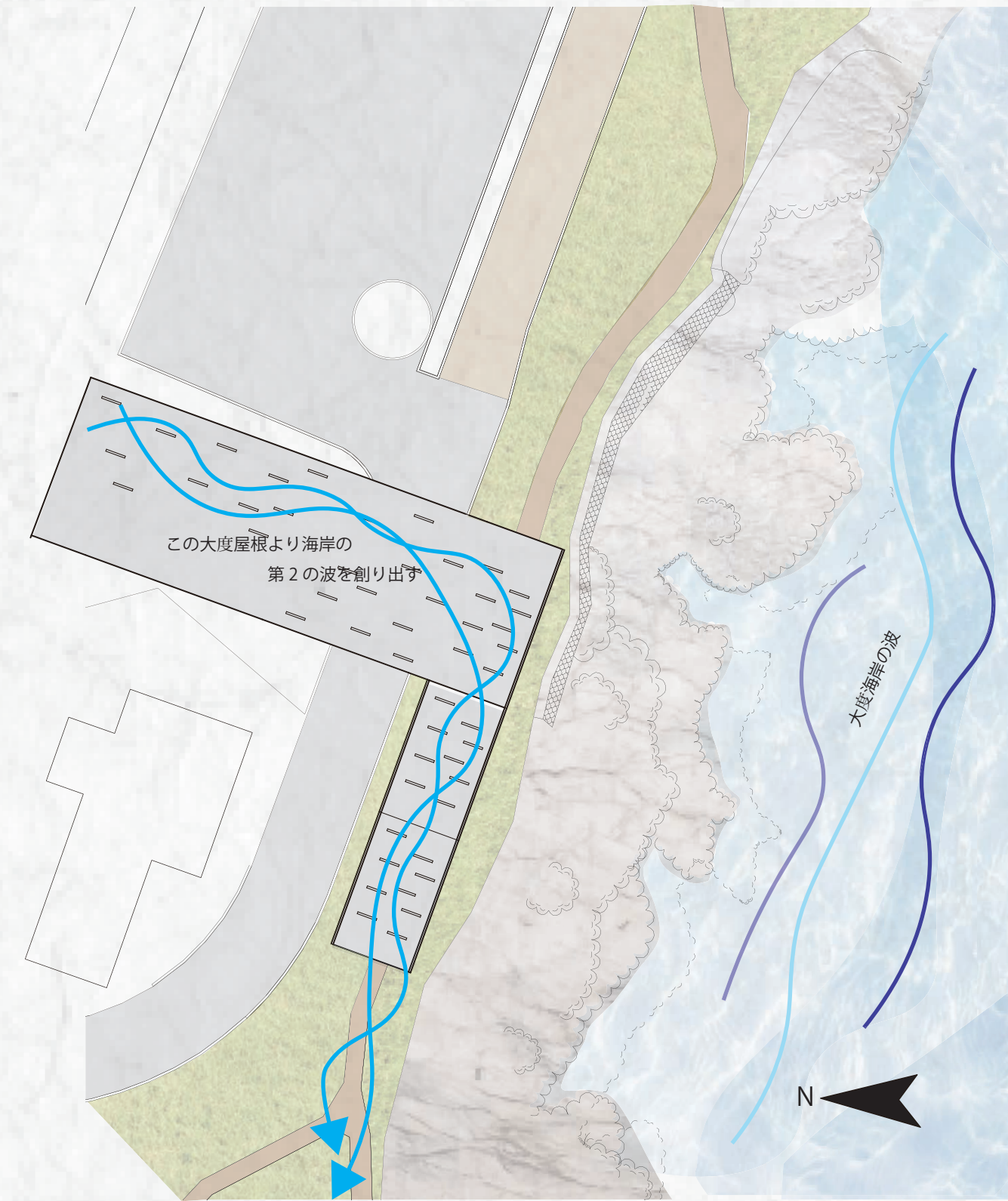
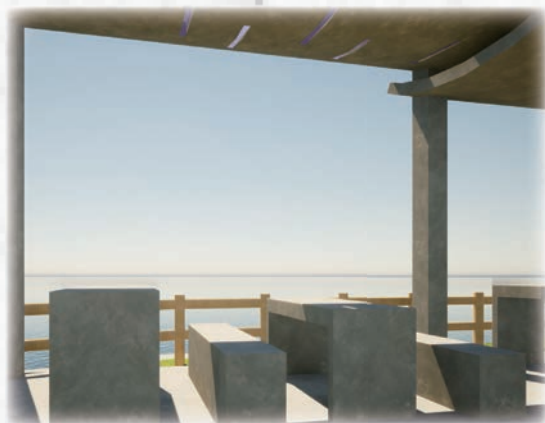
配置計画

トイレと休憩所を直交する二つの方向に配置し、それらが大屋根でつないだ。道路を跨ぐ屋根をかけることで雨に濡れずに車を取り降りすることができる。これはこの休憩所が小さなバス停のような機能を持つことを示唆している。



ベンチとテーブル

高さの種類を複数にし段々に配置した。低いテーブルはベンチに座って、高いテーブルはスタンディングディスクとして使われる。またベンチとテーブルを東向きに配置することで海を背面に座ることがないような計画となっている。



平面図 S : 1/100

配置図 S : 1/200

▽ GL+3,000

▽ GL+2,500

▽ GL±0

BB' 断面図 S : 1/200

▽ RL (GL+3,540)

▽ GL+2,475

▽ GL±0

AA' 断面図 S : 1/200